

本定例会に提出されております、議案第1号令和3年度野田市一般会計予算をはじめ、第2号から第7号までの各議案に、賛成する立場で討論を致します。

令和3年度の予算については、新型コロナウイルスへの感染拡大が長期化するなかで、外出自粛要請などの感染防止策によって、地域経済の活動が停滞し、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。

それに伴い、自主財源の根幹である市税が減収になる見込みや、一般財源の確保が極めて厳しい状況にあることから、全ての事業をゼロベースで見直した、大変難しい予算編成であったと推察いたします。

そうした状況のなかで、令和3年度の一般会計の予算規模は509億7,200万円となり、令和2年度当初予算との比較では5億9,400万円の減となっております。

また、市税の減収額については、予算編成方針作成時の14億円から、年末に示された国の地方財政対策や、令和2年度の決算見込みなどを参考に精査したことで、最終的に11億円の減収見込となり、この減収に伴い、臨時財政対策債を含む実質的な普通交付税は増額となったものの、一般財源が不足したことから収支均衡を図るために、財政調整基金を2億5,000万円取り崩して編成されております。

こうしたことを踏まえ、予算を審査するにあたっては、市民の視点に立った施策が適切に反映されている事を重点に、市長の提案理由の説明や予算審査特別委員会を通し、事務事業の見直しを含めた財政健全化への取組みについて、検討いたしました。

その結果、子育て支援策の推進や子ども館整備事業を始め、GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境の充実や、災害に備えた防災対策と、市民生活向上への施策や、地域の利便性の向上を図るためのコミュニティバスや、不便地域対策として期待されるデマンド交通の導入に向けた取組などが盛り込まれておりました。また、少子高齢化による人口減少や財源の減収、それを解決できる雇用の創出や税収増を見込める企業誘致や、道の駅の整備に向けた取組と合わせて、シティプロモーション事業を展開していくことも確認し、各事業への予算振りも適正に行われていることから評価します。

また、高架事業や野田市駅前開発によって、商業地が整備されていくなかで、ホテル誘致が成されていけば中心市街地を軸に、歴史・文化・食・遊びが体験できる閑宿地域や、生物多様性の取組を体感できるこのとりの里もなどと併せて、市内に素晴らしいコンテンツや民間企業施設などもあることから、市内を回遊できる観光ツーリズムの形成に向け、引き続きご尽力いただきたいと思います。

そして、野田市としてスポーツ都市を目指されていくことでもありますので、予

算に計上されております、改修予定のスケートボードパークを始め、他のスポーツ施設においても利用者の視点に立ったサービスなどの提供にシフトして頂き、スポーツ都市を実現して頂きたいと思っております。

また、デジタル行政に向けて情報発信ツールを軸に、予約システム、決済システム、住民票などの申請、AIによるチャット型Q&Aなど活用することにより、窓口での業務軽減や問い合わせ対応なども減らすことができる状況でもありますので、デジタル化に向けた準備に向け研修などをしていただければと思っております。

最後に、3月21日に緊急事態宣言が解除となりましたが、感染の再拡大が懸念される状況を想定した予算であることも評価し、議案第2号から第7号についても賛成するものと致します。